

### Contents \*火災保険料値上げ \*民法改正 \*夏季休暇のお知らせ \*コラム

2019年10月より

# 火災保険料 値上げされます。

2018年6月15日に損害保険料率算出機構は、火災保険の保険料の設定をする時の基準となる「参考純率」を平均5.5%引き上げたと発表。「参考純率」見直しは2015年10月以来の4年ぶりとなりました。今回は10月に保険料の値上げとなる背景や、値上がり前のこの時期に出来る対策などをご紹介します。

藤田 敏治

#### ①「参考純率」とは？

「参考純率」とは簡単に言うと各保険会社が火災保険料を決める時の基準になるものです。

保険会社の火災保険料率は、事故が発生した場合に保険会社が保険金として支払う「純保険料率」と保険会社が経営を営むために必要な「付加保険料率」から成り立ちます。

損害保険料算出機構は、純保険料率(保険金として支払うお金を鑑みて、「参考純率」を決定し、保険会社に提供します。この「参考純率」を基準に各保険会社が実際の保険料の「改定率」を決めることになるので、値上げ幅は保険会社によって異なることとなります。

今回、見直しとなった背景には大雪や台風などの自然災害水濡れ事故の増加等により保険金の支払い額が年々増加している点が挙げられます。保険契約者が保険金を保険会社に請

#### 火災保険料の構成

#### 各社の火災保険料率

純保険料率 付加保険料率

↑ 会員損害保険会社に提供

#### 参考純率

損害保険料率機構が算出

#### ②保険金支払い額の推移

これまで、どの程度の金額が保険金として支払われてきたのか、次ページの一覧(図1)をご覧ください。

2011年以降、1990年代、2000年代の平均を大きく上回る状態が続いていることがわかります。支払い額の増加はそのまま保険会社の収支に大きな影響を与えております。

こうした影響から、「参考純率」の引き上げが決定され、発表されたわけです。

ちなみに、今回引き上げ発表が行われたのは2018年6月15日です。この発表以降に大阪、京都等が被害にあった「台風21号」、岡山、広島、静岡等を襲った「7月豪雨」東京、神奈川、静岡等が被害の「台風24号」が発生していますが、今回の引き上げ考慮の根拠にはされていません。